

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製をめざし、挑戦を続けています。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第73期(2020年4月1日から2021年3月31日まで)につきましては、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」が食道がん等での使用が拡大するとともに、糖尿病および慢性心不全治療剤「フォーガ錠」、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」等の主要新製品の売上が堅調に推移しました。また、ロイヤルティ収入が増加したことで、売上収益は増収となりました。

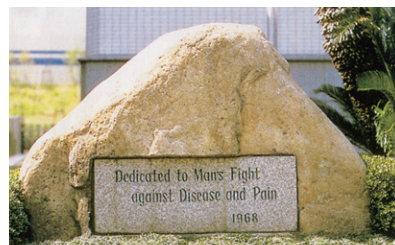
利益面については、売上収益の増加に加え、抗PD-L1抗体関連特許に関するライセンス契約締結に伴う契約一時金を得たことなどにより増益となりました。

新薬創製の成功確率が年々低下し、研究開発コストが増大するなかで、国内においては医療費を抑制するための種々の薬剤費抑制政策が推し進められており、新薬開発メーカーにとっては引き続き厳しい環境が続いています。当社は、研究開発力をさらに高めるとともに、海外での事業展開拡大にむけて、次のとおり取り組んでいきます。

成長戦略

製品価値 最大化	積極的な研究開発活動により、早期の上市および効能追加取得を図ります。また、製品ライフサイクルのステージごとの環境変化を機敏に捉え、常に競争優位性を担保しうる戦略立案を実現することにより、上市から最短でピークセールスを達成し、各製品のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組んでいます。
研究開発 の強化	医療ニーズの高い疾患領域（がん、免疫、神経、スペシャリティ）を重点領域に捉えて、医療現場に革新をもたらす新薬の創出をめざします。そのために、特定の研究分野で世界をリードする大学や研究機関、バイオベンチャー企業との研究・創薬提携を強化・拡充し、医療ニーズの高い分野での革新的な化合物の導入や新技術の獲得も積極的に進めています。
海外への挑戦	新薬を世界中に提供できるよう、少人数でのマーケティング活動が可能なスペシャリティ製品について、海外での自社販売をめざして取り組んでいます。すでに、韓国・台湾では現地法人を設立して製品の販売を行っています。欧米については、今後の自社販売を視野に入れ、開発を含めた体制の整備・強化に取り組んでいます。
企業基盤の 強化	企業価値を向上させ、持続的に成長するために、継続的に企業基盤の強化に取り組んでいます。また、さまざまな環境の変化に対応し、グローバル化を牽引できる人材育成や多様性向上を推進するとともに、すべてのステークホルダーに対する社会的責任を果たすべく、Environment（環境）、Society（社会）、Governance（企業統治）への取り組みも強化しています。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った革新的な新薬を一日も早くお届けできるよう、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年（昭和43年）に中央研究所（現在の水無瀬研究所）の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 相良 暁